

# アジアの

# 虫

第2号

2001年7月20日発行

題字・カット：宋 貴美子

編集・発行 アジア児童文学日本センター (〒100-0001 東京都千代田区千代田1-10-10)

## 第6回アジア児童文学大会 来年に延期

### 《2002年8月 大連で開催か》

本年8月中華人民共和国での開催が予定されていた第6回アジア児童文学大会は、中国側の事情で来年に延期されることになりました。

中国遼寧省児童文学学会会長の趙郁秀氏から当センター会長しかた・しん宛に過日書簡が届き、本年8月は諸行事輻輳のため北京での開催は難しく、また大連での開催は準備期間の不足で無理があるため、大会を1年遅らせざるを得ない、申し訳ないが了承してほしいと連絡して来ました。なお来年の大会は、大連または青島で8月に開催されることになりそうですが、まだ最終決定はなされておられません。趙氏からは大会テーマ等についても問い合わせが来ており、遼寧省児童文学学会としては大会の実施に前向きに取り組んでいることがうかがわれます。

なお第6回大会が1年延期されたことに伴い、日本で予定されている第7回大会も1年延期して2004年に開催することになります。

### 第1回定期総会・研究会を開催

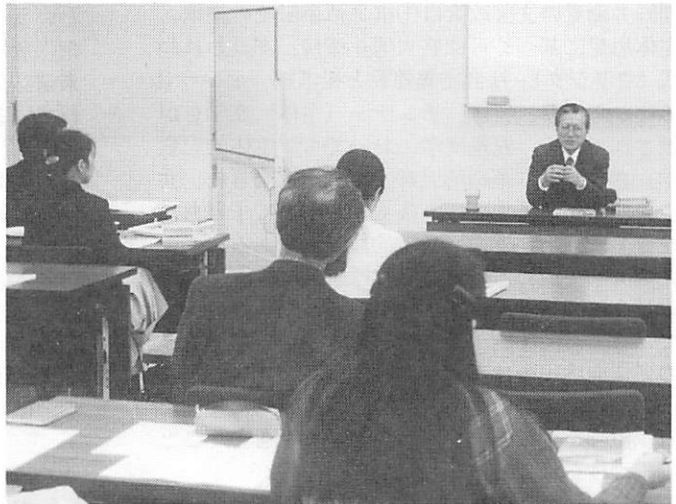
2001年3月17日

第1回定期総会が去る3月17日(土)午後、名古屋市市政資料館第3会議室で開催されました。2000年度の事業報告、同決算が承認された後、役員改選に移り新たに笠原肇氏と水上平吉氏を理事として選任しました。引き続き2001年度事業計画案、同予算案を承認して終了しました。

その後、同じ会場で第1回研究会が開かれ、成實朋子氏の「中華人民共和国の子どもの本の現状」、韓丘庸氏の「朝鮮民主主義人民共和国の子どもの本事情」という講演が行われました。成實氏は「幻想文学(ファンタジー)」と「校園小説」を中心に、中国のヤングアダルトはいま何を読んでいるかについて語られました。韓氏の講演(要旨は第2頁に掲載)は、朝鮮民主主義人民共和国の状況を説明された貴重なものでした。

### 第2回研究会 大島町絵本館で

第2回研究会(当日、理事会も開催)は、10月8日(月)、富山県の大島町絵本館で開催することになりました。大島町絵本館はアジアの子どもの本に熱い視線を向けており、アジア児童文学大



第1回研究会での韓丘庸氏の講演

会の開催にも積極的に関わっていただく予定です。なお研究会の講師には国立民族学博物館名誉教授の君島久子氏をお招きする予定です。

詳細は後ほどご連絡します。

韓 丘 庸 氏

これまで朝鮮民主主義人民共和国(以下「共和国」という)における子どもの本の現状については、きわめてわずかな紹介しかなされていない。1986年4月号の『日本児童文学』に「韓国と朝鮮民主主義人民共和国の児童文学の現状」という一文を書いたが、これが最初の紹介であったと思われる。その後、同誌93年12月号に「新世代への挑戦と期待と～朝鮮民主主義人民共和国と在日朝鮮人」が掲載されたが、それ以後も詳しい紹介や報告は乏しく、共和国は世界の児童文学事情のエアポケットになっている。

また93年に福岡県の宗像市で開かれたアジア児童文学大会に共和国は不参加であったが、私たちが在日の作家も参加しなかった。というのは、私たちの「在日本朝鮮文学芸術家同盟」は共和国の「朝鮮作家同盟」のもとにあるので、その作家同盟が参加できない大会にわれわれが参加することはできないからである。《文学に国境はないが、文学者には祖国がある》と言われるように、スポーツとは異なり、文学の交流にはいろいろとむずかしい問題がある。しかし、日本で開かれる予定の第7回大会にはこうした壁を乗り越える努力をしてもらいたいと思っている。

#### 1. 分断認識と統一指向

朝鮮労働党の文芸政策は①抗日革命伝統の継承、②主体思想に基づく「強盛大国」標榜、③「われわれ式(ウリシク)」社会主義建設と祖国統一という3本の柱からなり、特に「チュチェ(主体)文学」が強調されている。児童文学においても「主体的児童文学」さらには「革命的児童文学」が指向され、共産主義社会を最後まで守り抜く戦士として子どもたちを育てようというのが基本的な姿勢である。

児童文学に関わる雑誌としては、朝鮮作家同盟中央委員会機関紙の『朝鮮文学』『児童文学』が発行されている。また印刷・製本術や紙質は悪いが、数多くの児童向け出版物が刊行されている。作家などの児童文学者は約200名いて、彼らは1年間に長編を1篇、短編を2篇、ほかにエッセイなどを書くことが義務づけられている。

#### 2. 児童小説と「童話文学」

共和国においてはこれまで集団創作が多く、90年代になってようやく作者の名前が出てくるようになった。集団創作の代表的なものとして歴史小説『不滅の歴史』全40巻がある。そのほかよく読まれている選集として「現代朝鮮文学選集」全30巻、「朝鮮児童文学文庫」全15巻などがある。

共和国ではリアリズムの作品を「児童小説」と呼び、いわゆるファンタジーを「童話」または「童話文学」、幼年文学は「幼年期文学」、青年文学は「青春小説」と呼んでいる。以下、それぞれについて現状を説明していくこととする。

##### (1) 児童小説

代表的な作品としてリャン・チョルス「希望のつばさ」、ヒョン・スンナム「谷間に咲く花」、アン・リョンソン「よるこび」などがある。

##### (2) 童話(童話文学)

短編童話としては、農業問題やエネルギー問題をとりあげたチェ・ナツソの「蜂蜜のわき出るかめ」(1980)、中編童話としては李園友の「魔法のポケットからとび出した人びと」が注目されている。

##### (3) 幼年期文学

1993年から『児童文学』誌上で本格的に「幼年期文学」が取り上げられるようになった。その内容は幼年童話、幼年童謡、幼年小説、幼年寓話、幼年映画など多様である。

##### (4) 青春小説

主な作品として、リ・クアンホ「南海の風景」(1985)、パク・テミン「城壁に映った炎」(1995)、南大絃「青春頌歌」などがある。

なお同時代・同時意識ということから、「ウリマル(私たちのことば)」、「ウリヤギ(私たちのお話)」ということが強調され、『南北の子どもがともに読む創作童話』全5巻と『南北の子どもがともに読む伝来童話』全10巻がソウルの四季出版社から刊行されていることを付け加えておきたい。

#### 3. 児童詩(「童詩」と童謡)

児童詩には尹福鎮「小川」のほか、すぐれた作品がある。童謡は幼年期文学の中で積極的に取り上げられており、鄭曙村の「花大門(コッテム)遊び」に見られるように、伝承遊びの中から歌をつくり、それを普及させようとしている。しかし、暮らしの貧しさゆえに子どもの遊び文化は発達が遅れ、日本に比べると伝承されているものが少ないのが問題である。

#### 4. 民話と絵本

絵本や民話の出版における「金星青年出版社」の役割はきわめて大きい。『わが国の民話』全6巻は日本の学友書房から翻刻出版されている。『おもしろいお話365日ぶん』(1994)にも注目したい。このほか童話絵本として『フンプとノルプ』『兎伝』『青がえるのはなし』などがある。

#### 5. 翻訳文芸

『世界児童文学選集』全 70 巻が文芸出版社から刊行されている。これはヨーロッパに偏することなく、世界のいろいろな国の作品が網羅されているのが特徴である。特に東欧諸国、中国、モンゴル、ヴェトナムなどの国々に対する目配りがきいている。

なお、日本における共和国の作品の翻訳はこれからの課題であるが、新しい動きがすでに始まっている。私に関わっている「北十字星文学の会」(宝塚市)が翻訳グループとして地道な活動を続けており、今秋、『コリア児童文学選』の中で共和国児童文学の出版を予定している。

## 6. 評論

主な評論書としては次のようなものがある。ハム・ドギル『文学芸術建設経験』(1984)、リ・リョンギル『児童文学作品をどう書くか』(1987)、チョン・リョンジン『児童文学の新しい発展』(1991)、オ・ジョンエ編『朝鮮現代児童小説研究』(1993)、リ・ヨンホ編『童心と児童文学創作』(1995)

これらの評論は、東京にあるコリアブックセンターで入手することができる。

## 7. おわりに

21世紀は自主性と多様性を重んじる時代である。共和国においても、南北間の疎外性をなくす努力が払われねばならない。したがって、「ハンギョレ(一つの同胞)統一児童文学」を目指した動きが具体化されていくことになる。すなわち、「分断国家」を克服して、北の「ウリシク(われわれ式)」と南の「ウリエッコ(われわれのもの)」の「融合民族文化」を目指すこと、そのためには南北相互の事実を尊重し、自主性を確立して、民族同質性を回復することが指向されねばならない。

そうした状況からも、第7回アジア児童文学大会の成功に向けて、共和国への積極的なアプローチを期待したい。(文責: 畑中圭一)

# 日韓児童文学セミナー

## 4月14日 神戸学生青年センターで

オリニの会、オリニほんやく会の主催する「日韓児童文学セミナー」が、去る4月14日(日)午後、李在馥(イジェボク)氏など韓日児童文学勉強会の方々を招いて、神戸学生青年センターで開催されました。遠く札幌市からの参加者を含めて40名の参加で、4時間にわたる熱のこもったセミナーが展開されました。

まずゲストの李在馥氏の「たがいに学びあう文学～韓日児童文学史から」と題する講演。日本の近代児童文学は制度に貢献する子どもや、苦痛を与える歴史を生きていく童心を描いて、命の本質を探究する精神を開花させることができなかつたのではないかと鋭い指摘がありました。つづいて韓国MB C制作・放送の「児童文学の巨木 李元寿」という番組のビデオ視聴。有名な童謡「故郷の春」を書いた詩人で、童話作家としても活躍した李元寿氏の生き様がみごとに捉えられていました。

後半はまず「ミニ報告」で、西村武「韓国絵本と子どもたち」、太田光一「『愛の韓国童話集』を読む」、渡辺さえ「『北十字星文学の会』紹介」、李慶子「共和国の児童文学から」、金永順「韓国をえがく日本の児童文学」、畑中圭一「『アジア児童文学日本センター』設立の趣旨と背景」と、6人が10分づつ報告や感想発表を行ないました。最後はしかた・しん氏の「アジアの風の中での迷想・妄想」と題する講演。2000年代はアジアの文学が新しい目で見直される時期だということ、進化至上主義の欧米に対して、アジアは自然というイメージが強く、自然との一体化が志向される21世紀はまさにアジアの世紀だということが述べられました。

なおこのセミナーは来年(2002年)から「オリニ・児童文学セミナー」という名称で、2010年まで毎年春休みに神戸で開かれることになりました。

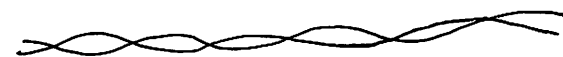
## 《新しい本の紹介》

にわとりを鳳凰だといって売ったキムソングル  
韓丘庸監修 北十字星文学の会訳  
素人社刊

梓 加依

アジアの中で天使の風が吹いた。昨年の南北朝鮮民族の握手である。私はその前日、京都の民俗劇の舞台上で、在日のオモニたちと朝鮮民族の南北統一を願って七夕飾りをしたのだった。まだ一つであった頃の朝鮮半島への想いは、在日一世や二世の心の奥に涙と共にしっかりと残されている。

数年前、在日朝鮮人の韓丘庸氏は、子どもたちのために南北朝鮮半島の物語を翻訳するという長年の思いを実現するために、「北十字星文学の会」を発足



させた。会には日本、韓国、共和国双方の会員が集い、今年6月、その会の一つの成果として、この本が出版された。最近、韓国の本は翻訳されるようになってきており、喜んでしたが、今回は朝鮮民主主義人民共和国の民話シリーズ『わが国の民話(ウリナラ・イエンニヤギ)』の中からも翻訳されているのがうれしい。この本の帯にあるように「語りつぎたい……南北朝鮮の子どもたちに、そして日本の子どもたちに」の言葉そのまま、多くの子どもたちの手に渡したいものである。北十字星文学の会の発足に多少なりとも関わった私も、拍手を送りたい。

## 団体・グループ紹介

私ども「アジア児童文学日本センター」がこれから関わりを深めていきたい、またご協力をいただきたいと考えている、アジアに関する団体やグループを紹介します。

### 日中児童文学美術交流センター（東京都）

日本と中国の児童文学、絵本、子どもの本のイラストレーションなどの交流の窓口として、1989年3月に設立され、さまざまな事業を推進して両国の文化交流に貢献しています。

特に力を入れているのは、両国の創作・研究・出版にたずさわる人びとの交流です。陳丹燕氏、曹文軒氏、周曉氏、冰波氏、張秋生氏など作家や評論家を招いての講演会をこれまでもしばしば催しております。さらに日中両国でそれぞれが代表団を派遣して、シンポジウムや話し合いなどを行い、相互理解を深めています。昨年10月には、日本から22名の作家や研究者が上海や蘇州を訪ねて熱のこもった話し合いが行なわれました。

そのほか図書展、絵本原画展などの事業を開催して理解の輪を広げる努力をするとともに、各種の出版にも力を注いでいます。すなわち、日中共同出版・共同編集による戦争児童文学選『チュイホアねえさん』（フレーベル館 1994年）の出版〔中国版は『戦火中的孩子』〕や、翻訳作品集『虹の図書室』の刊行（間もなく15号発行）、さらに評論集『日中児童文化』やニューズレター『虹の通信』の発行も続けられています。

こうした事業を通して中国の児童文学や美術の関係者との交流を重ね、「友好と不戦平和のきずなを強めていきたい」というこの団体に大きな期待が寄せられています。

現在の会員数約110名。会長前川康男氏、副会長太田大八氏・君島久子氏・松居直氏、事務局長中尾明氏で、作家、画家、研究者、出版関係者など子どもの本に関わる人びとが会員として活動しています。入会金3000円、年会費12,000円。『虹の図書室』『日中児童文化』の購読のみ希望の場合は1冊1000円＋送料実費（『日中児童文化』最新号は1200円）。

#### ★問い合わせ・申し込みは

〒162-0066 東京都新宿区市谷台町4-11  
小峰書店気付 日中児童文学美術交流センター  
Tel. 03-3357-3521  
Fax. 03-3357-1027

### 中国児童文学研究会（大阪市）

中国児童文学研究会は1960年、君島久子氏、斎藤秋男氏らによって発足。まさに激動の現代中国史によりそうように活動を続け、今年で41年目をむかえました。中国児童文学研究者、翻訳者、愛読者および教育関係者が児童文学を通して日中文化交流を行なうのが目的で、児童文化方面における初期の日中交流を一手に担ってきたと言えます。

発足当初は中国伝承文学や教育の関係者が多かったのですが、徐々に中国児童文学そのものを研究対象とする人が増えてきました。現在会員は約40名。毎年1月と7月に開かれる定例研究会（大阪）は、会員たちが意見交換をする貴重な場となっており、毎回数名の発表者により、児童文学作品の紹介、研究成果などが報告されます。

今後とも定例研究会の継続や機関誌の発行により、翻訳者や研究者などの人材育成につとめていきたいと思えます。会員外の方の定例研究会への参加も大歓迎です！

刊行物は、『中国児童文学会報』（年2回）および機関誌『中国児童文学』（まもなく12、13号を発行の予定）。入会金なし。年会費5000円。

#### ★ 問い合わせは

〒536-0002 大阪市城東区今福東2丁目10-18  
-409 寺前君子方 中国児童文学研究会  
Tel.&Fax. 06-6932-7581

### オリニの会（西宮市）

韓国・朝鮮をえがく児童文学作品を読む会として1986年に発足。その韓国・朝鮮がらみの作品も読みつくし、新作も少ないことから、現在では戦争・民族の対立・在日をキーワードに、欧米の作品や一般文学の作品も読んでいます。1月半に1回のペースで神戸の六甲で例会をもっています。会員は現在4名。不定期機関誌は「オリニつうしん」、「韓国・朝鮮をえがく児童文学作品すいせん図書目録」改訂版（戦後全作品リストつき・A4判12頁・頒価250円）をこの4月に発行。来年からは実質的な韓国・朝鮮児童文学会にあたる「オリニ児童文学セミナー」を年1回主催する予定です。

#### ★ 問い合わせ・連絡先は

〒662-0851 西宮市中前田町8-28 仲村修方  
オリニの会  
Tel. 0798-33-9433  
E-mail: [eorini@h5.dion.ne.jp](mailto:eorini@h5.dion.ne.jp)

### オリニほんやく会（西宮市）

韓国・朝鮮の児童文学作品を翻訳紹介する会として1998年に発足。これまでに『子どもたちの朝



鮮戦争』『日本がでてくる韓国童話集』『愛の韓国童話集』（いずれも素人社刊）を刊行しています。同じ短編をみんなで訳し相互批判を加えながら翻訳技術を磨いています。重くなりがちなテーマからもう少し軽いテーマへと脱皮をはかっているところです。会員は5人。大阪の梅田で1月半に1度のペースで例会をもっています。

★ 問い合わせ・連絡先は

上記の「オリニの会」と同じ。

なおオリニの会と共通のホームページのアドレスは <http://members.tripod.co.jp/eorini/>。掲示板への書き込みもできますので一度のぞいてみてください。

## (財)ユネスコ・アジア文化センター

(東京都)

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の基本方針に沿って、アジア・太平洋地域の《文化協力》《教育協力》の振興をはかるための事業を推進する財団法人として1971年に設立され、教材制作、人材養成、人物交流、情報交流などの国際交流事業を展開しています。

その一環として、子どもの本の発展をめざした事業が次のように行なわれています。

◇ 児童書共同出版事業

アジア・太平洋各国の専門家が集まり、共同で子どもの本を企画・編集し出版しています。センターがマスター版（英語版）を出版し、各国ではそれを自国語に翻訳出版して子どもたちに配布しています。これまでに各国語版36か国420万冊が刊行されています。

◇ 野間国際絵本原画コンクール

アジア・太平洋地域ならびにアフリカ、アラブ、ラテンアメリカの新進の画家やイラストレーターを対象に絵本原画を2年に1度募集し、グランプリをはじめ、次席、佳作など優秀作品を選出しています。入選作品はスロバキアのブラチスラバ絵本原画展（BIB）で合同展示されるほか、国内の各地でも展示されます。また絵葉書やカレンダーなどを通じて広く世界に紹介されています。

◇ ユネスコ図書開発・読書推進共同事業

アジア・太平洋地域の出版人（翻訳者、画家等を含む）を日本に招き、研修やワークショップを開催しています。

このほか、識字教育のための各種事業を開発し、またユニークなライブラリーも運営されています。

★ 問い合わせ・連絡先は

〒162-8484 東京都新宿区袋町6 日本出版会館内

ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）総務課

電話03-3269-4435

Fax03-3269-4510

ホームページ <http://www.accu.or.jp>

## 北十字星文学の会 （宝塚市）

1997年1月に活動をはじめた、韓国・朝鮮文学の翻訳グループです。会則には「私たちは朝鮮半島との善隣友好の歴史を培う上で、より豊かな地の文化を日本に紹介し、『韓国・朝鮮』との相互の文化を共有し、またそのために翻訳文芸を通して創造的發展を目指す人材の育成に努めます」という崇高な目的が謳われております。「北十字星」は白鳥座の別名で、夜空を二分する天の川を結ぶ星座だと言われています。国と国との心を通わす橋掛かりになればという思いから、この「北十字星」を会の名前に選んだということです。

具体的な活動としては、大阪外国語大学講師韓丘庸氏の指導を受けながら、童話、民話、詩、エッセイなどの翻訳を勉強する例会を月1回開いています。翻訳のための基礎として、韓氏から歴史や文学の講義を受けたり、文学歴史散歩を実施することもあります。翻訳した作品は同人誌というかたちで刊行しており、『翻訳文芸・北十字星文学』はすでに5冊発行されています。五月には初めての単行本として、当会員の翻訳により、コリア児童文学選として南北朝鮮の昔ばなし集『にわとりを鳳凰だといって売ったキムソンドル』を素人社から発刊しました。

現在の会員は30名、在日コリアンや韓国からの留学生もおります。

例会は毎月第1土曜日の午後1時から4時まで、宝塚市立第2隣保館（阪急宝塚線「中山」駅から徒歩6分）で開かれています。

★問い合わせは、事務局の渡辺さえ氏まで。

電話（夜間のみ）0797-83-6636

## インド児童文学の会 （日野市）

インドのニューデリーで開催された第26回IBBY世界大会から帰国後、インドの児童文学に関心をもつ6名が1999年4月に赤坂のインドレストランに集まったのが「インド児童文学の会」の事実上の発足でした。

伝承文学の宝庫であるインドには、世界最初の子どものための動物物語といわれる古代寓話集「パンチャントラ」があり、これには日本の民話「サルの生き肝」や「ネズミの嫁入り」のルーツとみられる話がすでに編まれています。また現代児童物語も書かれています。だが、日本にはあまり知られていません。

そこで、主にインド児童文学を紹介する会誌を年1回発行することが検討され、「チャンパの花」のタイトルで創刊号（'99年10月）に続いて第2号まで発行しています。会の主な活動はこの会誌発行と、4月に総会をかねた集いを行なうことです。このほかIBBY国際理事マノラマ・ジャファの来日を機にパンチャントラ講演会を開催しました（'99年10月）。

現在のところ会員数30名、年会費2000円で

会誌を1冊受け取ります。また会誌へは分担金1万円を支払って執筆することができます。発会后、日の浅い会ではありますが、このような活動を中心にインド児童文学紹介のお役にたてればと考えています。(鈴木千歳)

★問い合わせは

〒191-0032 日野市三沢850-3-501

鈴木千歳方 インド児童文学の会

Tel. 042-593-2455

むさしのスカーレット・アジアのお話部会

《市民の手ですすめる「アジアのお話と

武蔵野の子どもたちをつなぐ活動》

(武蔵野市)

動物園の柵の中でしか見る事のないラクダも、モンゴルのお話の主人公になると生き生きと動き出します。現代のアジアのお話に登場する、学校の成績に一喜一憂している子供達の様子は、まるで隣の誰かさんのようです。こんな色とりどりのアジアのお話と日本の子どもたちとの出会いの場を作りたいのです。

いままで日本では、外国のお話といえば西欧の物語が主流でした。そんな中で育った私たちは、「外国」といえば、まず西欧諸国をイメージしてしまいます。しかし、人も情報も世界規模で行き来する現代、偏った世界観は通用しません。次代を生きる子供達には、公平な文化観をもった、心の広い人になってほしいと願っています。

武蔵野の子どもたちとアジアのお話のマッチング作戦として、平成12年度から、まず学校図書にアジアのお話を増やすことを目指した活動を始めました。現在発売されているアジアのお話のリストを作成し、図書購入の際の参考資料として市内全校に年2回配布しています。国際理解教育に力が入れられ始めたことも相まって、学校側からもよい手応えが返ってきます。今後は、新しいお話の紹介なども含め、本を通して世界の国々とのネットワーク作りにも貢献することができれば大きな喜びです。地域に暮らす外国人市民と協力して活動を進めています。(野崎斐子)

★ 問い合わせは

〒180-0014 武蔵野市関前2-2-8

野崎斐子 Tel. 0422-54-5896

E-mail: [famanoza@tt.rim.or.jp](mailto:famanoza@tt.rim.or.jp)

『韓国・朝鮮をえがく児童文学作品

すいせん図書目録・2001年版』

オリニの会編 2001年4月刊 11頁

頒価250円

連絡先：仲村修方オリニの会

Tel&Fax 0798-33-9433

# BOOK REVIEW

## あなぐまさんちのはなばたけ

クオン・ジョンセン文 チョン・スングク絵  
ピョン・キジャ訳 (平凡社刊 1500円)

しかた・しん

昨年九月出版され好評だった『こいぬのうんち』(平凡社)の第2弾という形で、同じ作者と画家、訳者(クオン・ジョンセン文 チョン・スングク絵ピョン・キジャ訳)のトリオによって出版された。

せつかけだけど、きれいな花が大好きなあなぐまおばさんが、ある日のつむじ風で、遠くの村まで吹き飛ばされてしまった。その村の学校にあった花園で、みたこともないような美しい花が咲き乱れていた。

うっとりしてしまったおばさんは、さっそく家にも同じような花園をつくろうと決心。とんで帰るとさっそくご主人のあなぐまおじさんに、家の周りに花園を作らせようとする。

ところが、花園を作るために、いざ、家の周りを掘り返そうとした二人は、すっかり困ってしまう。家の周りにも美しい野の花がいっぱい咲き乱れていたからだ。

この絵本を読みながら私は、植民地時代のある風景を鮮烈に思い出してしまった。

その頃山登りに狂っていた中学生時代の私は、ある農村の近くの山で、うららかで透き通った春の光の中で、十二三人の女性たちが踊るようにはねたり歌ったりしながら、野草を摘んでいるのに出会ってしまった。ぼったりと日本人の中学生である私を見つけた彼女たちの表情は一瞬のうちに凍りつき、硬い表情のまま、わき道にさっと消えてしまった。しかし野の草花の中で、跳ねるように笑っていた女性たちのその一瞬の表情が、私の中に一枚の絵のように焼き付いていた。この絵本のラスト、あなぐまおばさんが野の花の薫りをかぎながらの、うっとりとした表情とともにそのシーンを思い出したのだ。

そういえば、私がよく行く信州のペンションにこの本の訳者ピョンさんがいらした時、ペンションのまわりの花ばなを、一本一本いとおしように私に示された時の表情も思い出す。そうした韓国朝鮮の人たちの、自然への愛情が匂い立つような感じのする絵本である。

## 『小さい旗』 113号

[于立極作・水上平吉訳「いのちのいたみ」  
楊囁作・馬場与志子訳「カタツムの優勝カップ」など]

小さい旗の会 2001年6月刊

連絡先：水上平吉

Tel&Fax 093-661-4488

# 風のたより



## きど のりこさんから

この数か月を振り返ってもますと、いくつかのエキサイティングな出来事がありました。クルド人の作家ジャミル・シェクリーさんの来日にあわせた出版とシンポジウムに関わらせていただいたこと、昨年、紆余曲折の末に平凡社から刊行された韓国の絵本『こいぬのうんち』が、その後順調に版を重ね、最近同じ作者・画家・訳者による絵本『あなぐまさんちのはなばたけ』（権正生作・チョンスンガク絵・卞記子訳）も上梓されたこと（これについては今号の『月刊百科』に書かせていただきました）、また、昨年、長谷川潮さんと私を頼ってアメリカから来られた研究者のマーニー・ジョーレンビーさんが、日本の戦争児童文学を研究され、大変面白いユニークなテーマを見いだされたこと、鳴門教育大学に来られていた中国の祝士媛さん、蘇真さんが日本チームとの共同研究で、戦争児童文学の中日比較の論文を紀要に発表されたこと……、これらは、一方で進む歴史教科書の歪曲問題に拮抗する力となり得るはずで

す。また、ごく最近ですが、モンゴルから作家で児童文学も書かれるトゥメンジャルガルさんが来日され、児文協を訪問されました。モンゴルの代表的な詩人、文学者である彼が日本で知られていないのもショックでしたが、モンゴルで紹介されているほとんど唯一の日本の物語が『本田宗一郎物語——空飛ぶオートバイ』だと聞いてガーンという感じでした。友好に名を借りた商業戦略は文化の侵略でもあり、アジアとの本物の交流を目指す私たちにとって、考えねばならない問題です。（6月30日）

## 仲村修さんからのE便り（6月19日）

みなさま お元気ですか？ 当方ぼちぼちやっています。つれづれなるままに最近の韓国・朝鮮を主にした児童文学翻訳事情などをしたため、E便りしたいと思います。

■今日西宮市のある書店に入ってみて、あっと驚きました。なんと今年の読書感想文コンクール（これにいじめられた経験のある人はいいいイメージをもっていないと思います。専門家の間でも廃止論もあります。）の課題図書に韓国の絵本が選ばれていました。小学校の中学年向けで、『ソリちゃんのチュソク』（セーラー出版、1999年）です。ワールドカップということもあるのかも知れませんが、韓国の翻訳物が絵本であれ童話であれ、はたまた少年小説であれ、選ばれたのは戦後初のことでしょう。

■うれしいことがもう一つあります。来年から使用される予定の国語4年生の教科書（日本書籍）に中

国侵略をあつかった中国の短編作品がのっています。

「チイ兄ちゃん」（任大霖作、中由美子訳）です。これは日中児童文学美術交流センターが長年取り組んだ成果として出した『チュイホア姉さん』（日中児童文学美術交流センター編、フレーベル館 1994年）のなかから選ばれています。日中の児童文学・児童美術関係者の交流努力の成果でもあります。訳者の中さんは謙虚な人ですから、教科書にのることを、最近になって小生に教えてくれました。犯罪的な教科書が大手をふっているときだけに、ちょっとだけ胸をなでおろす朗報でした。中国における日本の侵略を描いた児童文学作品が（日本の作品であれ中国の作品であれ）教科書にのったこと自体画期的なことでした。

■さらにうれしいことは、卞記子さん訳で『こいぬのうんち』5刷達成につづく第2弾が同じ作者・画家の作品で同じ出版社から出ました。『あなぐまさんちのはなばたけ』（クオンジョンセン作・チョンスンガク絵・2001年6月18日・平凡社刊）です。借り物でない自分の足元の自然や文化を大切にすることの大切さをあなぐま夫婦が気づくというお話です。この作家クオンジョンセンと画家チョンスンガクは、日本のT社にスカウトされて民話の絵本も計画中とか。

■出版情報としては、ほかに『世界一つよいおんどり』（新世研刊）という韓国絵本の翻訳が昨年出ているそうです。出版社はなじみがなく作家・画家はよくわかりません。訳者は岡田百合さんとか。

■6月23日の『図書新聞』に『愛の韓国童話集』の書評がでかかとのりしました。素人社さんの努力でルートができ、きどのが書いてくれました。きどさんはさらに平凡社の『月刊百科』でアジアの児童文学作品のことを紹介してくださるそうです。また親子読書・地域文庫全国連絡協議会の夏の大会でも1分野の講師をうけもち、泊り込んでアジアの児童文学を語ってくださるそうです。うれし涙の出るような応援団長です。

■小生は「李元寿（イウオンス）の親日作品」という短い論文を書いて最近学会に提出しました。かれは韓国を代表する童話作家の一人で、解放前には童謡詩人として活躍。現在も南北で愛され歌われつづけている童謡「故郷の春」を15歳で書いた人でもあります。1942年作の2篇の親日少年詩の発見は悲しい発見でした。かれには親日作品がないだろうと思われていたからです。昨年3月高麗大学図書館で小生が見つけた。秋頃には紀要が出ると思いますので、出たときに改めて。



## 李慶子さんからの便り

### <共和国の作家・作品について>

北では昨年金日成(キムイルソン)総合大学文学部に児童文学科が設置され、いままで以上に児童文学及び作家の育成に力が注がれている。1947年創刊の月刊誌『児童文学』は通算550号を数え、これを読んで育った子どもたちの中から代表作家が生まれている。1998年に長編童話『不思議な国にやって来た3人の男たち』を出版したファン・リョンアもその一人で、1956年開城(ケソン)市生まれの女流作家。

さて、98年1月号の児童文学誌は3人の作家の抱負を掲載している。キョン・ミョンソプは「祖国を愛する童話の主人公を……」、チェ・ナツは「ファンタジーの羽を大きく広げて」、リ・クムチョルは「子どもたちに輝かしい明日を!」と題して。

チェ・ナツは私の好きな作家の一人だ。彼は、童話作家には他者と違ったファンタジーの羽が不可欠だと言う。彼の童話集『宝物山のごうけつ兄弟』には、表題作を含めて64年から90年にかけて書いた15篇の作品が収められている。その中のひとつ「瘤をつけられた猫」は、ねずみを捕るのがうまい猫が主人公。禁じられている小鳥を捕まえようとして逆に親鳥から瘤をくつつけられた猫は、どんどん大きくなる瘤に悩まされる。瘤は鳥に悪さをする動物撃退のためにきつき診療所のきたたき医師が開発したものだ。そうとも知らず、村の動物たちは……。15篇の作品はいずれもあつたかくて、シリアスだ。

## BOOK REVIEW

### 中国 21 Vol.11 現代中国映画研究

愛知大学現代中国学会編 風媒社2001.4  
成 實 朋 子

いつだったか大阪国際児童文学館で「牧笛」という中国のアニメーションを見たことがある。これは1963年に上海美術電影製片廠によって製作されたもので、水墨画で描かれた水牛と笛を吹く少年の動きがいかになめらかで、美しかったのを覚えている。しかし一緒に見ていた子どもたちはすぐに退屈して、数分でぞろぞろと部屋を出ていってしまった。この映画は誰向けに作られたものなのだろう。そんな思いがふと頭の隅をよぎった。

中国映画は現在大きな転換の時期にあると言える。経済発展が進む一方で、映画の国家配給体制は廃止になり、採算を意識しなくてはならなくなったし、VCDや有線テレビなどの普及により映画館入場者数は激減し、多くの人材がテレビに流れてしまった。アニメーションもまた例外ではない。かつてその芸術性により国内外の注目を多に集めた水墨画アニメも、現在ではほとんど作られることはない。

日本製のアニメーションが好んで見られるようになり、多くのテレビアニメーションが製作されるようになったが、長編アニメ映画や芸術的アニメ映画はめっきり減ってしまった。

そんな中 1999年7月に、『宝蓮灯 (LOTUS LANTERN)』という長編アニメーションが発表された。上海美術電影製片廠が当初予算1200万元(約1億6800万円)をかけ、同廠の威信をかけて製作されたものである。もともとこの映画、文芸界ではかなり話題になったが、一般のうけはあまり良くなかったようである。仙女の息子が魔法の蓮のランプを使い、孫悟空の力も借りながら、魔王に閉じ込められた母親を取返すという物語は、以前に映画化もされていて、中国人にはおなじみの内容である。映画放映前後に絵本やCD、VCD、キャラクター商品の販売を行い、声優には中国を代表する俳優姜文や朱旭を使うなど熱心なキャンペーンを行い、登場人物はディズニー風(なんと敵役の魔王の顔はその声をあてている姜文にそっくりである)に造形してみたりと、かなりの工夫をしていたが、いかんせんストーリーそのものに目新しさがなかったためか、中国の若者や子どもたちの心をつかむまでにはいたらなかった。しかし上海美術電影製片廠の新たな挑戦であったことは間違いなく、中国アニメ事情を知る上でははずせない一本である。

『中国 21』は年間4号発行され、現代中国に関する様々な事象について論じている論集であり、今号は現代中国映画についての特集となった。最近の中国映画関係の本では、アニメーションについて全く触れられていないことも多いが、同誌では中央戯劇学院部長とのインタビューの中でこの『宝蓮灯』についても言及しており、興味深い。また資料として載せられているキーワード500には、アニメーションを初めとする子ども向け映画に関する語彙も多く取り上げているので、中国児童文化に興味のある人には役に立つだろう。

### 『大阪国際児童文学館を育てる会会報』

第64号

「シンポジウム「現代のアジアの子どもの本を語る」の記録掲載」

大阪国際児童文学館を育てる会 2001年4月刊

連絡先: 同会事務局 上野勝子

Tel&Fax 072-824-3695

### 後 記

『アジアの風』第2号をお届けします。この手づくりの機関紙は、皆さんからの情報でできあがっています。どんな小さなものでも結構です、情報をお寄せください。次号は11月発行です。(畑中圭一)